

農村地域における子供の生活と遊び

小林 昭子

(宮城県農業センター)

Children's Life and Games in Rural Community

Akiko KOBAYASHI

(Miyagi Prefectural Agricultural Research Center)

1 はじめに

“むら”にはさまざまな年令集団があり、家における位座の変化とともに属する集団をかえながら“むら”に通じていく仕組みができていた。この仕組みのなかで“むら”のリーダーも形成されてきた。子供も子供組のなかで異なる年令集団を構成し、遊びを通してリーダーシップ、メンバー

シップを育んできた。高度経済成長を背景とする社会構造変化のなかで、子供の生活領域や人間関係も変化していると思われるので、生活時間、遊び、通学の側面から、この問題に対する接近を試みた。調査は宮城県北部平湯水田地帯にある中新田町鳴瀬小学校において、アンケート方式によりおこなった。低学年として3年生、高学年として5年生を調査対象としたが、その概況は表1に示す通りである。

表1 調査対象者概況

区分 学年別	人数	男 女 別		農家非農家別		家 族 構 成			家 族 数			兄 弟 数			
		男	女	農家	非農家	核家族	2世代 家族	3世代 家族	5人 以下	6～ 7人	8人 以上	1人	2人	3人	4人
3年生	29	12	17	25	4	9	19	1	13	12	4	1	14	14	0
5年生	34	18	16	32	2	8	26	0	6	24	4	1	16	13	4

2 帰宅後の子供の生活

子供の一日の生活から、学校での時間、生理的必要時間を除くと、帰宅後の4～5時間の自由時間が残るが、この時間の使い方から子供の生活の一端をのぞくことができる。帰宅後の生活時間は表2に示したが、各項目とも学年によるちがいがでている。

低学年の子供の生活時間：低学年の子供の平均的生活を

モードでみると、勉強を30分ぐらいし、遊びは戸外で1時間半、室内で1時間ぐらい、テレビを2～3時間みて、手伝

を20分ぐらいするといったくらし方をしているといえよう。高学年の子供の生活時間：勉強は30分から1時間ぐらい、遊びは室内で30分ぐらい、戸外遊びに関してはかなりの時間をかけるものとほとんどしないものと個人差が大きい。テレビは3時間から3時間以上みている。低学年に比べると遊び時間が減って、勉強時間とテレビの時間が増えている。

表2 帰宅後の生活時間

種類	学年	ぜんぜん しない	10分 ぐらい	20分 ぐらい	30分 ぐらい	1時間 ぐらい	1時間 半ぐらい	2時間 ぐらい	2時間 半ぐらい	3時間 ぐらい	3時間 以上	無回答	計
勉 強	3年生	0	6.9	13.8	51.7	17.2	6.9	0	0	0	0	0	100.0%
	5年生	0	11.7	0	41.2	35.3	8.8	2.9	0	0	0	3.4	100.0
室 内 遊 び	3年生	3.4	0	17.2	31.0	34.4	6.9	6.9	0	0	0	0	100.0
	5年生	26.5	8.8	17.6	29.4	14.7	2.9	0	0	0	0	0	100.0
戸 外 遊 び	3年生	0	6.9	10.3	13.8	17.2	31.0	10.3	6.9	0	0	0	100.0
	5年生	23.5	5.9	14.7	11.7	5.9	11.7	2.9	5.9	8.8	0	8.8	100.0
テレビ	3年生	0	0	3.4	6.9	17.2	6.9	20.7	17.2	3.4	20.7	3.4	100.0
	5年生	0	0	2.9	0	5.9	11.7	14.7	8.8	11.7	44.7	0	100.0
手 伝	3年生	13.8	27.6	20.7	20.7	17.2	0	0	0	0	0	0	100.0
	5年生	8.8	26.5	26.5	0	11.7	2.9	0	0	0	0	5.9	100.0
塾での 勉 強	3年生	13.8	6.9	0	0	0	0	0	0	0	0	79.3	100.0
	5年生	72.5	0	2.9	2.9	2.9	0	0	0	0	0	20.6	100.0
けいこ と	3年生	6.9	103	3.4	0	0	0	0	0	0	0	0	100.0
	5年生	75.4	0	2.9	0	0	0	0	0	0	0	0	100.0

3 子供の遊び

遊びをめぐる子供の行動のひろがり人間関係をするた

め、遊び相手とその人数、遊び場、遊びの種類を図1～4に示した。遊び相手は兄弟、近くの友達に集中しており、その数も1人、2人、3～4人と少ない(図1, 2)。学年

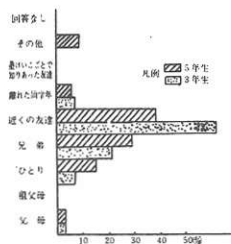


図1 いつもよく遊ぶ相手

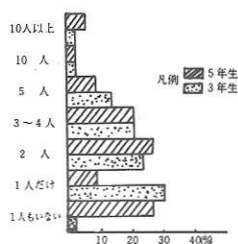


図2 家のちかくにいる友達の数

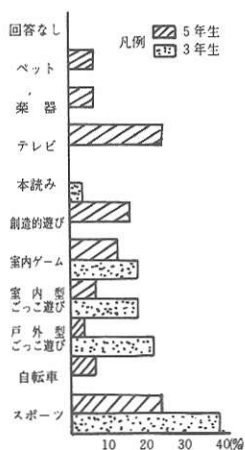


図3 遊びの種類

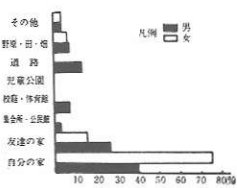


図4 遊び場

比較では、高学年に遠距離同学年の友達、その他の友達が見られ、若干友達範囲のひろがりはみられるが、家の近くには1人も友達がいないものが約1/5もある。これは図3の遊びの種類をみると、低学年にスポーツ、ごっこ遊び、ゲーム等集団で遊ぶものの比率が高いのに対し、高学年ではスポーツを除くと、テレビ、創造的遊び、楽器、ペットといったひとりでできるものが多くなることでも示されるように、子供の遊びそのものが少集団化しているのに、高学年化につれ更に少数化ないしはひとり遊びといった傾向にあるためと思われる。遊び場は自分の家、友達の家、校庭、野原と遊び場のひろがりが若干なりともみられるが、女子の場合は、自分の家の比率が8割ちかくもありほとんどそのひろがりがみられない。

4 通 学

通学時における人間関係をみると、通学時の人数は5人以下でそれほど多くはないが、上・下級生と一緒に通学する比率が高く、特に高学年の朝の通学時にその傾向が強い

表3 交通手段

学年別	区分	徒 歩	自転車	バ ス	回答なし	計
3 年		29 100.0	0	0	0	29人 100.0%
5 年		25 73.5	9 26.5	0	0	34 100.0

表4 通学時間

学年別	区分	10分以下	11分~20分	21分~30分	30分以上
3 年		17 58.6	5 17.2	4 13.8	3人 10.3%
5 年		9 26.5	11 (自転車 5人含) 32.4	12 (自転車 4人含) 35.3	2 5.9

表5 朝の通学

学年別	区分	ひと り	兄 弟	同 学 年	上・下級 生と一緒に
3 年		3 10.3	5 17.2	9 31.0	12人 41.4%
5 年		4 11.7	2 5.9	11 32.4	19 55.9

表6 帰 宅

学年別	区分	ひと り	兄 弟	同 学 年	上・下級 生と一緒に
3 年		5 17.2	1 3.4	9 31.0	14人 48.3%
5 年		3 8.8	0	20 58.8	11 32.4

表7 通学時の人数

学年別	区分	ひと り	2 人	3人~5人	6人~10人	10人以上
3 年		3 10.3	9 31.0	14 48.2	3 10.3	0 0.0%
5 年		3 8.8	14 41.2	14 41.2	3 8.8	0 0.0

表8 帰宅時の人数

学年別	区分	ひと り	2 人	3人~5人	6人~10人	10人 以上	回 答 なし
3 年		7 24.1	8 27.5	13 44.8	0	0	2人 6.9%
5 年		2 5.9	9 26.5	23 67.6	0	0	0 0.0

ように思われる。(表3~8)

5 ま と め

生活時間、遊び、通学といった側面から、子供の行動のひろがりや人間関係についてみたが、通学時の若干の集団行動以外は、生活時間にしめるテレビの大きさ、遊びにみる小集団化ないしはひとり遊びの傾向、限定された遊びの空間とどれをみても、かつて遊びを通して子供文化を伝承しつつリーダーシップ、メンバーシップを育てあげてきた子供組の姿をうかがうことはできない。“むらリーダー”は年令集団の中で徐々に育成されていくものであり、リーダー問題を考えるうえでも、年令集団の底辺にある子供の問題に目をむけていくことが必要であろう。